

# ナノ医工学シリーズセミナー

第65回 11月24日(木) 17:00-18:00

会場：医工学研究科ナノ医工学研究棟 講堂（青葉山キャンパス 工学研究科 機械・知能系内）  
Thu. 24 November 17:00-18:00 Graduate School of Biomedical Engineering Nano-Biomedical Engineering Research Building (Aobayama Campus)

共催：東北大学サイクロトロン・ラジオアイソトープセンター 東北大学分子イメージング研究推進室

## 医工学研究におけるビジュアルインフォメーションの役割： サイエンスイラストレーション 日米の現状

### 1 サイエンスビジュアルと、サイエンスコミュニケーション —日本の現状と東北大学

長神 風二 氏（東北大学脳科学グローバルCOE特任准教授）

大学院医学系研究科・医学部広報室担当兼務。今やJSTイベントとして定着した「サイエンスアゴラ」の立案者でもあり、科学コミュニケーションのさまざまな実践で知られる。「世界一受けたい授業」（日本テレビ系列）にも出演。

2000年代以降、日本において、急速にサイエンスコミュニケーションの重要性が叫ばれ始め、各地で教育コースも生まれてきています。しかしながら、イラストレーション、グラフィックスと言ったビジュアル面の役割は、そうした潮流の中でも軽視されています。日本の現状を整理し、東北大学が現在取り組んでいることについても概観します。

### 2 サイエンスアート作成・教育の現場と海外事情

Tomo Narashima 氏（サイエンスアーティスト・Tane+1 LLC 代表, USA）

ニューヨークを拠点に活動するサイエンスアート・エージェンシー Tane+1 LLC の代表。自らもScience, Scientific American, 日本のNewtonなど有名な科学雑誌および多数の医学書のイラストを担当。

医工学の研究発表や教育においてビジュアル情報は欠かせません。イメージングではビジュアル情報を直接扱いますが、情報の読み取りや分かりやすい提示の部分で Scientific Art が協力できる場面は多々あります。東北大学では Toronto 大(2010)と John's Hopkins 大(2011)の協力を得て、医学分野を軸に Medical Art 実習講座をしてきました。現場をご紹介します。

工学部Bookカフェにおいて海外作品を展示中！（11月23～25日）  
講演終了後ガイドツアーも予定。

